

どうぞ助けてください！ 博士の憂鬱

大学の教員採用は基本的には公募が建前となっている。つまり、教授や准教授のポストに空きができたなら、それを広く一般に周知して、多くのひとにチャンスを与えるという制度である。公募とは名ばかりで、できレースもかなりあるが。

最近では、博士取得者で無職のひとが数多くいることから、教員のポストを公募をすると実に多くのひとが応募してくる。その中で、つぎのような手紙を同封してきたひとがいた。（プライバシーの問題があるので少し脚色している）

どうぞ助けて下さい。今回の公募に受からなければ、もう死ぬしかないと思っています。

わたしは、現在四十五歳です。定職がなく、高校の講師のアルバイトで細々と暮らしています。妻には、高校に正式採用されていると嘘をついていますが、実は、完全なアルバイトです。そこで稼いだ金から月々十五万円を生活費として妻に渡していますが、正直、自分の自由になる金はほとんどありません。そのため、昼は100円のカップヌードルで毎日をしのいでいます。

わたしは、〇〇電気に務めていましたが、三十八歳の時に退職し、母校の北〇大学の博士課程に入学しました。妻からは、会社を辞めてどうすると怒られましたが、恩師から短期間で博士号を取得するには、それがいちばんと言われました。当時は、文部科学省のご指導で社会人ドクターという制度が導入され、最短二年で博士号を取得できるというものでした。

せっかくなので、これを利用して欲しいという強い要望が、文科省から大学にあったようです。恩師は、博士号さえとれば、大学の教員として採用される道があると言っていたのですが、それはかないませんでした。博士を取得して二年ほどはポスドクとして働くことができましたが、もともと年齢が高いので、すぐに大学から解雇されました。

恩師に相談しましたが、わたしの業績では北〇大学で採用するのはとても無理だと言われています。なにしろ、二年間で博士号をとらせるというのが大学の絶対的な使命でしたので、内容など二の次だったのです。ですから、論文もあまり書けませんでした。その後、いくつかの大学のポストに公募しましたが、書類選考ですべてけられました。

しかたなく、他の職も探しましたが、四十歳を越えた人間には、魅力ある就

職先などありません。博士号を持っているということも決して有利には働きません。むしろ、予備校の教師などは、博士号を持っている人間であふれかえっています。それに、予備校は大学と違って競争社会です。人気のない講師は、すぐに生徒から愛想をつかされ、辞めさせられます。

いまは、恩師の紹介で、高校の講師のアルバイトをしています。夜間の授業まで担当していますが、収入はひどいものです。博士号をもった四十すぎの人間には大学のポストだけが頼りです。どうぞ、この惨状を理解していただき、今回の公募で採用をお願いしたいと思います。

実は、本当の手紙はこの三倍以上の長さがあった。制度や政府、大学に対する不平不満も書かれていた。苦境の中で、仕方なく記したものなのだろうが、こんな手紙を書いて、公募が有利になるとでも思ったのであろうか。

特に、恩師から、この業績では北○大学では採用が無理と言われているのに、こちらに公募してきたということは、その程度の大学と言っているのと同じである。そのことに気づかないのだろうか。

気の毒とは思ったが、この方は、まず門前払いである。理由は簡単で、他の候補者と比べると、あまりにも業績がなさすぎるのだ。博士課程のときに 2 編の論文を書いただけである。ポスドクの間は、恩師の雑用をまかされて、研究に専念できなかったと書いてあるが、それは、本人の問題であろう。

実は、このような不幸な人間が増えている。これも政府の悪政がもたらす悲劇であろうか。大学教員の流動化がまったく進まない状況で、博士取得者をむやみやたらと増やした。結果は目に見えている。こんなばかげたことが行われてきたのだ。最近、文科省に対し、博士の数を減らすような提言がなされたそうだ。量から質への転換という。

いま、世の中には何万人という博士取得者が無職でいるらしい。実際には役所や大学が、博士取得者の進路を完全に把握できていないのが実情であるから、実際の数はもっと多いのかもしれない。

実力のあるひとは、きちんとした就職先を得ているという指摘もある。しかし、実力があるのに職を得られないひともいるのも事実である。文科省に対策を聞いたら、あっさり「ない」という応えが返ってきた。